子どもたちのキャリア教育に資するための三泗地区高校展と、企画を遂行するための保護者・行政・地域企業との連携について

三泗地区高校展実行委員長・三重県 PTA 連合会会長
三重県 PTA 安全互助会副理事長・四日市市 PTA 連絡協議会参与　杉戸雅巳

序章

三泗地区高校展とは三泗地区高校展実行委員会が主催する、高校への進学を考える小中学生および対象児童生徒をもつ保護者に向けた高校紹介、さらに社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するためのキャリア教育について考えてもらうイベントです。この三泗地区高校展は 2017 年に県立高校展として初開催。2018 年からは県立高校展に先立って私立高校展を行っていた私立高校とも連携のうえ、県立高校と同日同会場で開催を行い、これが現在の三泗地区高校展の原型となって現在に至ります。事業を主催する実行委員会は三重県の北勢地方における三泗地区（朝日町、川越町、菰野町、四日市市）内で組織される三重郡 PTA 連絡協議会、四日市市 PTA 連絡協議会という 2 つの郡市 PTA から出向する役員と指名された OB、四日市市教育委員会および私学高等学校代表者、実行委員会に指名された有識者にて構成される組織です。

そもそも児童生徒が高校進学を考えるにあたり、当地区では各高校が指定した日に行うオープンキャンパスに参加するか、通学する中学校の進路指導を活用するという方法しかありませんでした。オープンキャンパスへの参加は、実際に児童生徒が自分の目で高等学校への通学経路や各学校の校風、力を入れている分野を確認できるという利点があり、必要なものではあります。半面、高校進学は考えているが具体的な目標を持たない場合や、周囲の話から比較的選択することが多い普通科への進学を決めつけてしまっている場合には多角的な目で複数の高等学校を比較できないのではないかという懸念もありました。特に専門的な課程を持つ工業・商業・農業に加え、普通科に於いてもコースを選択できる高校が増えている現在では入試前にできるだけ多くの判断材料が必要となってきています。また、学業に限らず芸術やスポーツの分野でも特色ある取り組みを行う高等学校は多く、1 校毎に日程を調整して訪問を行うオープンキャンパスでは比較が難しい現状もあります。

保護者の立場として高校では子どもたちに有意義で実のある学校生活を送ってもらい、来るべき社会生活に向けて大学への進学か就職なのかの意思決定に必要な将来へのビジョンを自らが考え、それとともに幅広い交友関係や社会性を身につけてもらいたいと願っています。ただ残念ながら高校入学後に、子どもたちが思い描いた将来設計や学校生活との齟齬による不登校や自主退学が散見されることもまた事実です。そのような残念な事例を減らし、全ての子どもたちが充実した高校生活をおくるために「大学展」や「企業展」のように一覧性をもって高校を比較する機会を設け、より多くの進路選択について保護者も含めて主体的に考える企画として「三泗地区高校展」があります。

1. 立ち上げにおける組織環境の違いによる課題とその解決に向けた取り組み

2015 年の時点で三重県内に「高校展」「高校進学フェスタ」の名称で行われる事業は 4 つあり、1 つは行政である三重県が主催して毎年県庁所在地の津市で開催されるもの。他 3 つが PTA 主催事業で桑名市・松阪市・伊賀市で開催されていました（2022 年現在の松阪市は休止)。しかしながら県内有数の児童生徒数を有する四日市市では事業立ち上げの話は定期的にあがるものの運営のための機運が醸成されず、またノウハウもないために長らく開催することができませんでした。そのような状況の中、私立高校が四日市市で私学展を開催することとなり、県立高校も同じ形式でできないかという話が当時四日市市 PTA 連絡協議会の会長の筆者と三重郡 PTA 連絡協議会の駒田昌彦会長(現在の三泗地区高校展実行委員会副委員長）の両名を中心に立ち上がり、調査を始めることとなりましたが、その調査の中では大きく次のような課題が見えてきました。

①. 高等学校は県立であるため、郡市立で構成される小中 PTA とは接点がなく依頼や調整が難しい。

②. 保護者の立場としては私立高校とも合同で開催したいが、私立高校は民間企業であり、PTA 会費を使用した事業に民間企業の宣伝ともとれる企画を行った場合に会員のコンセンサスをとることが困難である。

③. 四日市市と三重郡では児童生徒数の差が大きいが、費用負担割合をどうするか。

④. 四日市市と三重郡の PTA は組織構成が違い、合同で開催する場合は予算執行や会議の日程が立てづらい。

⑤. 例年行う事業や出向する外郭団体が多い四日市市 PTA には人的余裕が少ない。

⑥. PTA の役員は通常 1～2 年で任期が終了する為、引き継ぎが難しい。

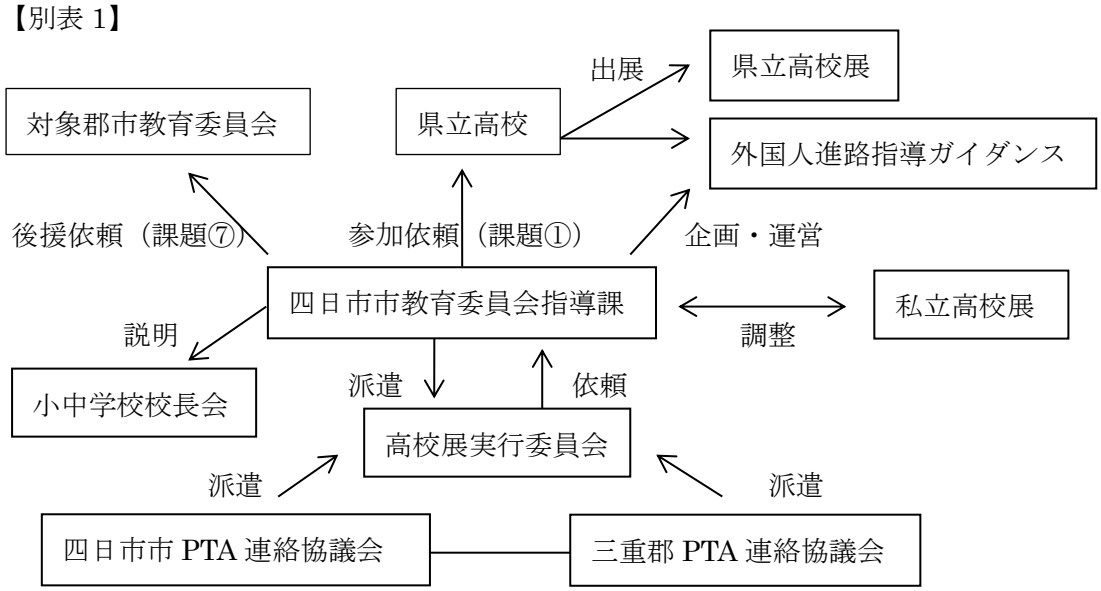
⑦. 行政の後援を依頼するにも 1 市 3 町を毎年説明に回ることは困難。

単年のみ開催するイベントであればクリアできる課題もありますが、高校展を開催する意義として、継続的に地域の子どもたちをサポートするという理念が前提にあるため、全てを少人数で解決することには限界があるとの結論に至らざるを得ませんでした。そこで第 1 の代案として、既に高校展の開催実績のある桑名市の事業を主体として北勢地方全体の事業として展開できないかを模索しました。この案については当時の北勢地区の郡市 PTA の会長でかなり前向きに議論されましたが、4 市 5 町の 6PTA で持ち回り開催としても結局上記①～⑦の問題は解決されるわけではなく、断念せざるを得ませんでした。

停滞する状況が動いたのはその翌年、当時の四日市市教育委員会教育長より高校展を開催するのであれば四日市市教育委員会がバックアップするとの打診を受けたことがきっかけとなります。ただし市の公式な行事とすると予算が発生することにより議会での予算請求と承認が必要となるため、あくまでも後援という立場にはなるという条件ではありましたが、ここで行政の後ろ盾を得たことは現在まで続く三泗地区高校展に於いて非常に重要

なターニングポイントであり、同時に上記の課題の①と⑦が解決することを意味しました。また三重郡 PTA と共に県立高校展として 1 市 3 町を対象として開催することについても快諾いただいたことにより、この時点で現在の高校展実行委員会の組織としての枠組みが完成したことになります。組織としては四日市市 PTA 連絡協議会、三重郡 PTA 連絡協議会、そして四日市市教育委員会より高校展の担当として指名された教育指導課で構成。実務者としては経緯を理解したうえで各方面に顔が利くほうが運営が円滑であろうという判断で、四日市市 PTA より前会長で顧問の杉戸、三重郡 PTA より前会長で顧問の駒田、また有識者として元県立高等学校校長の鈴木達哉氏（現ユマニテク教育研究所副所長）、教育指導課の廣瀬課長（現四日市市教育長）および前田課長補佐（現四日市市立三滝中学校長）を中心として第一回三泗地区県立高校展開催に向けて陣容が整いました。この時点では「三泗地区県立高校展」と記載したように、②の課題については棚上げという形をとっています。これは私学展が既に次年度開催スケジュールを立てていることと、どのような形にしてもまずは開催することを最優先にしたためです。しかし四日市市教育委員会の調整により県立高校展は私学展の隣の建物で同日開催できるようになり、この配慮で来場者は県立高校展と私立高校展の両方を同日に参加することが可能な企画としてスタートを切ることができました。このように 2017 年については表には立っていませんが行政が主なリーダーシップを発揮して企画されています。この時点での主な役割分担と組織の立ち位置については下記【別表 1】を参照ください。

【別表 1】



この【別表 1】でもわかるように初年度の企画に関して特に連絡・調整の分野で行政の果たした役割は非常に大きいものでした。ただ行政にとってメリットがあるので協力しているという側面も勿論あり、それが「外国人のための進路指導ガイダンス」の同時開催お

よび、表にはありませんが四日市市より各学校を巡回派遣している外国語指導員の紹介です。「外国人のための進路指導ガイダンス」は四日市市内在住の外国籍または外国にルーツを持つ子どもたちのための進路説明会で、受け入れに積極的な高校が参加する企画であり、対象を絞った高校展ともいえる事業となります。この事業が三泗地区高校展と結びつき、地区在住の子どもたち全てをカバーする進路説明会となることで、四日市市の教育行政とその広報活動においてもプラスになる一面はあったと思われます。

前述の実務の面でクリアすべき課題については実行委員会の中での討議および実行委員会に派遣する四日市市 PTA と三重郡 PTA の代表者の直接の話し合いで下記のような調整を行い、開催に向けての環境が全て整いました。

①. 高等学校は県立であり、郡市が中心の PTA とは接点がなく依頼や調整が難しい。

⑦. 行政の後援を依頼するにも 1 市 3 町を毎年説明に回ることは困難。

こちらの課題については【別表 1】のように行政が担当。

②. 保護者の立場としては私立高校とも合同で開催したいが、私立高校は民間企業であり、PTA 会費を使用した事業に民間企業の宣伝ともとれる企画を行った場合に会員のコンセンサスをとることが困難である。

私立高校展の取扱いと立ち位置について、初年度については県立高校展を近隣会場で開催することで、別開催だが参加者への利便性を高めて相乗効果を見極める方針。

③. 四日市市と三重郡では児童生徒数の差が大きいが、費用負担割合をどうするか。

④. 四日市市と三重郡の PTA は組織構成が違い、合同で開催する場合は予算執行や会議の日程が立てづらい。

⑤. 例年行う事業や出向する外郭団体が多い四日市市 PTA には人的余裕が少ない。

⑥. PTA の役員は通常 1～2 年で任期が終了する為、引き継ぎが難しい。

③についてはそれぞれの組織の対象児童生徒数に応じた応分の費用負担で合意。④⑤⑥は OB が企画の中核を担うことで意思疎通の円滑化と現役執行部の負担を減らすが、予算の執行に関わる部分もあるので郡市の会長は実行委員会に所属するという申し合わせ。

以上のようにこの時点での課題を整理したことで、関係団体への調整は行政が、必要経費と運営に携わる人員は PTA が責任を持つという運営方針が決定され、初めて行う県立高校展開催への準備が整いました。

この県立高校展初年度開催においての特筆すべき点は役割分担が明確であったため、また実行委員会の役員が組織の決定権を持つ役職者で構成されていたため、小田原評定にならず、各組織がそれぞれの課題について都度早急に解決しつつ運営できたことにあります。一例として上記以外に出てきた予想外の問題として、県立高校による出展への温度差が思った以上に大きいということがありました。反対意見としては既にオープンスクールを実施しているので必要性を感じないという理由や、前述のように桑名市も県立高校展を実施しているため、出展準備にあたる高校の教員の負担が大きいといった理由が挙げられまし

た。この問題については高校との折衝および案内を担当していた四日市市教育委員会教育指導課が県立校長会やそれぞれの高校へ開催意義や内容について丁寧な説明とお願いを行ったことや、高校教員の負担については開催年度により午前午後の違いはあるものの、半日 3 時間程度の開催時間とすることにより高校側への理解も進みました。これは実行委員会に参画していただいている行政の調整力の賜物です。また保護者を取りまとめる役割である PTA における上記③④⑤⑥の課題は、OB ではあるものの三重県 PTA 連合会という PTA の県組織の役職を兼任していた四日市市および三重郡の元会長両名が、それぞれの組織に対してリーダーシップを発揮できる立場にいたことが実行委員会にとり非常に重要でありました。基本的に合議制の組織である PTA において、通常の事業に於いて意思決定のスピード感に欠けることは否めませんが、県立高校展の企画実行と意思決定に関しては元会長の両者に一任を取り付けて企画にあたったことで実行委員会の意思決定の速度と問題に取り組む際の責任、さらに四日市市 PTA 連絡協議会と三重郡 PTA 連絡協議会の間での調整が容易になったからです。このような形で諸問題を解決しつつ 2017 年にスタートを切った三泗地区高校展ですが、その後は下記【別表 2】のように開催を重ねていくことになります。

【別表 2】

開催年度	参加者数（概算）	開催場所	
		県立高校	私立高校
2017	517	四日市市総合会館	四日市市商工会議所
2018	1049	じばさん三重 5F・6F 展示室	じばさん三重 6F ホール
2019	1302	三浜文化会館多目的ホール	三浜文化会館創作スペース
2020		四日市市 PTA 連絡協議会 HP 内特設サイトにてオンライン開催	
2021	県立 734 私立 578	四日市市総合体育館	勤労者市民交流センター
2022	1113	三浜文化会館 1F	三浜文化会館 2F

「県立高校展」「私立高校展」を隣接する 2 会場で開催した 2017 年の高校展は、参加者からの評価も高く、また私立高校側も 2016 年の単独開催と比較して参加者が大幅に増加するという結果となりました。この成功を受けて実行委員会は 2018 年に同会場での開催を企画します。ただし課題②の問題の解決には私立高校側より代表者を実行委員会に招き、調整する必要がありました。ここで問題となるのが私立高校は県立高校と違い、それぞれの学校が独立した企業または運営母体を持つ団体であり、交渉窓口が一本化できないことです。こちらについては 2016 年に先に私立高校展を企画運営していたことが功を奏し、その際に取りまとめ役を担っていた海星高等学校の下村校長（現学監）が引き続き実行委員会との交渉窓口となることで解決しました。このように私立高校代表者と直接かかわり

を持つことで費用負担の問題について会場代や備品代は実行委員会と私立高校側のそれぞれが実費負担、チラシなど広報物については折半での出資、準備や当日の手伝いに私立高校に関してはPTAの人員を用意しないという申し合わせを行い、これによって同時開催に向けての一番大きなハードルを越えることが可能となりました。これについてはやはり行政およびPTAが関わった事業であるという側面が非常に大きかったと思われます。高校展を参加対象者に周知するための手段として小中学校校長会や小中学校の教員を通じての告知やチラシの配布をする際にも、四日市市および三重郡の3町教育委員会を通じて配布している実績があることで、私立高校側に費用負担を説明する際に理解が得られやすかった側面もあったかと考えられます。また私立高校側より県立高校と比較すると集客力に不安があるため、開催時間について私立高校は県立高校よりも長時間行いたいという要望がありましたがこちらも了承し、現在もその形式で開催されています。この2018年から、県立、私立の高校を保護者・教員および小中学生の参加者が同日同会場で比較検討することができるようになり、初期の目的を果たす形で開催することができたわけです。それに伴い「三泗地区高校展」という現在も続く正式名称を使用して開催できるようになりました。

2. 新型コロナウイルス感染症下での開催と新たな課題を受けての現在の形式への変遷

行政主導の部分が大きいとはいえ、2018年、2019年と会場を変えつつ開催を重ねて運営ノウハウを獲得し、参加者数も年々増加していった三泗地区高校展でしたが、2020年より世界的に猛威を振るった新型コロナウイルス感染症と各種イベントに適用された制限は過去に経験がなく、また高校展のような対面式で行うことを主眼に置いた企画にとって致命的なものでした。もちろん実行委員会のなかでも中止という選択肢も含めて議論が交わされましたが、全国的に行動制限が行われるなか、また高等学校のオープンキャンパスも全て中止となるような状況下においても受験は行われるため、「その制限された状況と限られた情報の中で進学について考えなければならない子どもたちに不利益があってはならない。そのためにも高校展を中止にはできない。」という意見が多く、当時より世間的に認知度があがってきたオンラインでの開催を模索することとなります。ただオンラインには会場に足を運ぶ必要がないという利点もある一方で、集団での利用、特に質疑については参加者が多数集中すると考えられるため、高校側の応対する人数と実行委員会が用意できるオンライン回線の数では対応しきれず混乱を生むことが予想されました。当初はそれでも高校展を開催する意義は直接交流できることにあると考えて、各高校が実行委員会の指定した時間にログインして参加者と交流する案や、参加希望者が小中学校に集合して集団で質疑を行う案などが検討されました。しかし参加者の密を回避できる保証がないことや、実行委員会としてオンライン事業者のアカウントを開設して運営するとしても年に1回の事業に対して四日市市および三重郡PTAで予算執行の承認を得られるのかなどの課題がありました。このような様々な状況を勘案した結果として実行委員会の役員でIT関係の

事業を行っている方の助言もあり、四日市市 PTA 連絡協議会が開設しているホームページ内に三泗地区高校展の特設サイトを開設し、そこに高校紹介の一覧を掲載することで 2020 年度の三泗地区高校展とすることとなりました。但し、高校の一覧を掲載するだけでは高校のホームページを閲覧すれば事足りるので、高校で開設するホームページとの差別化と参加者の利便性や多様な情報収集ができる高校展ならではの特設サイトを開設するという目的で、各高校に動画で学校紹介を行ってもらうことと、それまでは会場で行っていた有識者による講演も動画にして配信する。また特設サイトという形式の強みを活かし年度末までサイトを開設しておくという開催方式で運営することで実行委員会、行政、PTA、私立高校代表者の意見の一致をみました。動画の依頼については県立高校へは行政が、私立高校には私立高校代表者を通じて各学校への説明と依頼をお願いし、掲載については業者に委託。費用については実行委員会が持ち、その一部を私立高校側が負担するという申し合わせを行い開催されたこの 2020 年三泗地区オンライン高校展ですが、諸事情で開催日に来場できない方や後日再び気になる高校を確認したい参加者には好評であり、現在も会場での開催と併せて毎年特設サイトを更新して開催されています。運営側としては非常に大変な作業であり、苦肉の策でもあったオンライン開催でしたが、結果として参加者の評判もよく、三泗地区高校展が高校選択の一助となる為のツールとして大きな位置を占めるコンテンツの一つとなりました。

順調に回数を重ねる三泗地区高校展でしたが、それに伴った新たな課題も発生します。まず人的課題として行政側窓口の教育委員会内での異動に伴う担当者変更がありました。これは今後も避けることはできない課題ですが、前述のように三泗地区高校展の中に四日市市教育委員会の行事を組み込んであること。また高校展が年数を重ねるごとに参加者にも周知されるとともに、アンケートでの高校展実施に対する感謝が多いこと。出展する高等学校内に於いても年間行事として組み込まれるほど浸透したことなど、実行委員会関係者全てが三泗地区高校展を続ける意義を共有することに繋がったことなどもあり、異動に伴う引き継ぎもスムーズに行われました。異動に伴う引き継ぎの円滑さは行政の強みであると改めて認識する出来事でもあります。また人的課題に並行して、先延ばししていた組織的課題も解決する必要がありました。そもそも三泗地区高校展実行委員会は前掲【別表 1】にあるように、行政、PTA、私立高校代表者、有識者で構成される合議制の組織として成り立った経緯があり、委員会とはいえ役職があるわけでもなく会議についても便宜上 PTA 代表者が進行を務め、招集も行政主導の時もあり PTA が呼びかける時もありと緩やかな連合体で行っていました。運営に関してはこの形式で特に問題はなかったのですが、じばさん三重での 2018 年開催は 6F 建てのフロアを 2 つに分けて行ったこともあり参加者が目指す高校が非常にわかりづらく、またそれについて現場の高校展スタッフに聞いても指揮連絡系統がなく責任者がいないため、一部の参加者にとって大変不便をかけてしまったという経緯がありました。また PTA 側から実行委員会への出向者についても明確な規定

がないため、行政のようなスムーズな業務移行について不安がありました。そこで高校展を今後も末永く運営できるように新たに規約を起草し、2021 年開催から施行しました。その結果、三泗地区高校展実行委員会は行政と 1 市 3 町の 2 郡市 PTA および私立高校代表者による合議制から、運営母体は PTA にありつつも高校展に関して独立した外郭団体として新たに定義されました。また三泗地区高校展実行委員長が運営に関する責務を負う体制になることで責任の所在と企画および運営の円滑化を図ることに成功しました。下記【別表 3】は規約の一部を抜粋したものとなります。

【別表 3】三泗地区高校展実行委員会規約

（名称）

第１条 この会は，三泗地区高校展実行委員会（以下「本会」という。）と称する。

（目的）

第２条 本会は，高校進学を目指す三泗地区の小中学生を応援するために、北勢地区の公立高校および PTA、三重県北勢地域私立高等学校連絡会の協力のもと、高校展を実施することを目的とする。

（活動内容）

第３条 本会は，前条の目的を達成するため，次の事業を行う。

（１）高校展の企画及びその運営に関すること

（２）高校展の宣伝及び紹介に関すること

（３）その他，目的を達成するために必要な事項

（会員構成）

第４条 本会は，四日市市教育委員会、四日市市ＰＴＡ連絡協議会，三重郡ＰＴＡ連絡協議会、その他の関係団体及び本趣旨に賛同する者をもって構成する。

（役員）

第５条 本会に次の役員を置く。

（１）委 員 長　１名

（２）副委員長　２名

（３）会計監事　１名

（４）会計監査　１名

（５）委　　員　若干名

（６）顧　　問　若干名

（役員の職務）
第６条 委員長は，本会を代表し，会務を統括する。
２ 副委員長は、委員長を補佐し，委員長が不在のときは，その職務を代行する。
３ 会計監事は，本会の業務、及び会計を行う。
４．会計監査は会費が適正に運用されるよう指導し、年度末に監査を行う。
５．委員は所属 PTA との連携に努め、会の円滑な運営に寄与する。
６．顧問は実行委員会の運営に関し必要な助言を与える。

（役員の選任）
第７条 委員長は，四日市ＰＴＡに所属する者、所属していた者の中から選任する。
２ その他の役員は、委員長が他の委員と協議し選任する。
（１）別紙役員選出規定を参照
３．顧問は四日市市教育委員会指導課より選任された者及び、委員長・副委員長に推挙された学識経験者で構成する

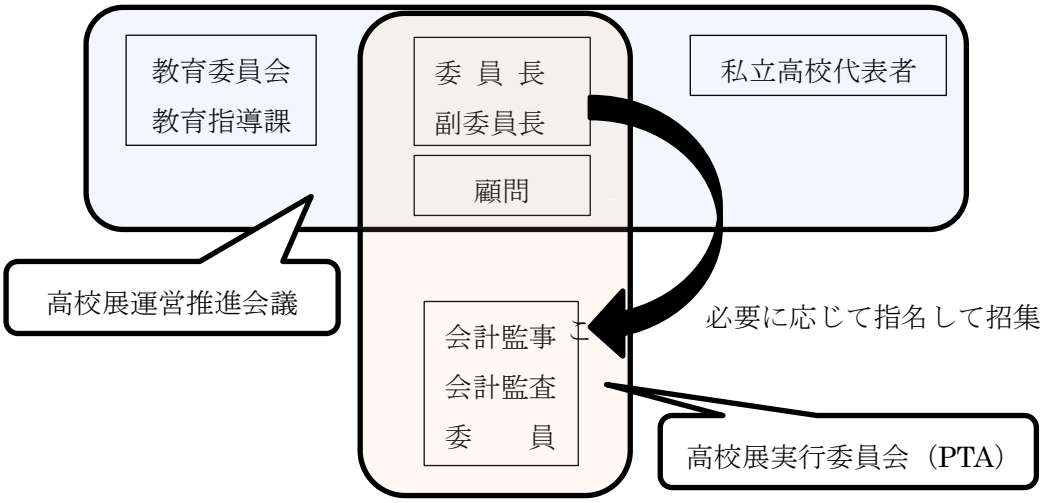
（役員の任期）
第８条 役員の任期は１年とし，再任は妨げない。
２ 選任された役員が任期中にその構成団体を離れたときは,その後任者が役員に選出されたものとみなす。ただし，その任期は前任者の残留期間とする。

（会議）
第９条 本会の会議は，必要に応じ委員長が招集し，議長は委員長があたる。
２ 会議に付議する事項は次のとおりとする。
（１）規約に関すること
（２）役員に関すること
（３）事業計画及び予算に関すること
（４）事業報告及び決算に関すること
（５）事業に関すること
（６）その他の必要事項

上記【別表 3】の規約第 2 条・第 3 条で三泗地区高校展を開催する意義と三泗地区高校展実行委員会という組織の目的を明確にし、第 4 条で構成組織として行政と PTA を明文化したうえで私立高校については関係団体という位置付けで参画することを改めて確認。第 7 条において高校展実行委員会内の役職を定義して今後継続的に事業を行う際の責任の所在と、役割分担を示したことになります。この第 7 条で高校展実行委員会委員長を四日市

市 PTA 連絡協議会から選出すると明記した理由として、主体的に三泗地区高校展に協力している行政が四日市市であるため連携が取りやすいこと。また、四日市市 PTA と三重郡 PTA との PTA 本部役員の人数の違いおよび参加対象児童生徒数および小中学校の数が四日市市の方が多数であるという事情があります。ただ実際の運営に際しては、三泗地区高校展実行委員会を全員招集すると人数が多すぎて意見集約が難しいこともあり、委員長が実行委員会の中から議題の内容により都度招集する実行委員会役員・行政・私立高校代表者・有識者で構成する三泗地区高校展運営推進会議で基本方針を示す運営方法を採っています。その会議内容を受けて、四日市市 PTA および三重郡 PTA より出向した委員で現場の管理体制について実行委員会内の PTA 役員のみで高校展実行委員会を行い、当日の運営に向けての準備を進めるという役割分担を行うことでさらなる運営の円滑化が図られました。その大まかなイメージが下記【別表 4】となります。

【別表 4】三泗地区高校展実行委員会　内部組織図

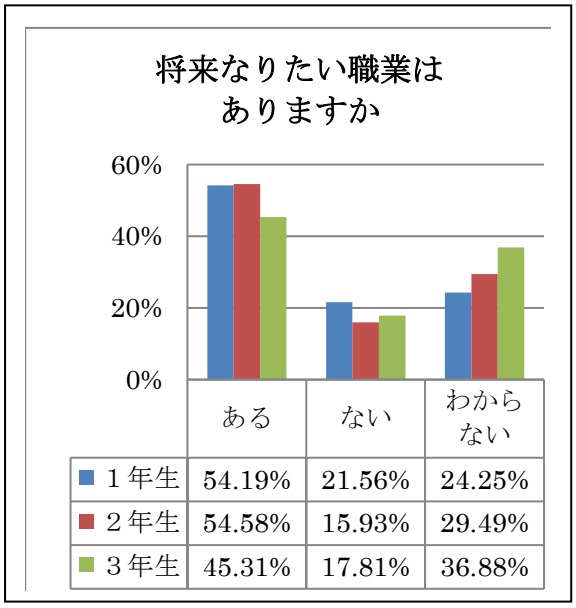


3. 対象となる中学生の意識について

組織としての体裁がある程度整い、回数も重ねる三泗地区高校展ですが特に PTA 内において高校展開催の意義について意思統一が完全に図られることは難しい事情もあります。それは郡市 PTA の役員任期は 1 年であることが普通であり、会長が替わると引き継ぎがあったとしても突然高校展実行委員会に関わることになり、この企画に対して疑問を抱く役員が出てくる場合があるということ。その説明や取りまとめのために OB が中心となった実行委員会であるので、高校展の意義や歴史的経緯については都度説明を行うわけですが、アンケート集計結果などで参加者の声を確認するだけでは幼稚園から中学校までをカバーする PTA 全体にとっての企画の意義の説明としては資料が不足していると感じられましたので、当事者である中学生の意識調査を 2022 年に行いました。そもそも高校展を

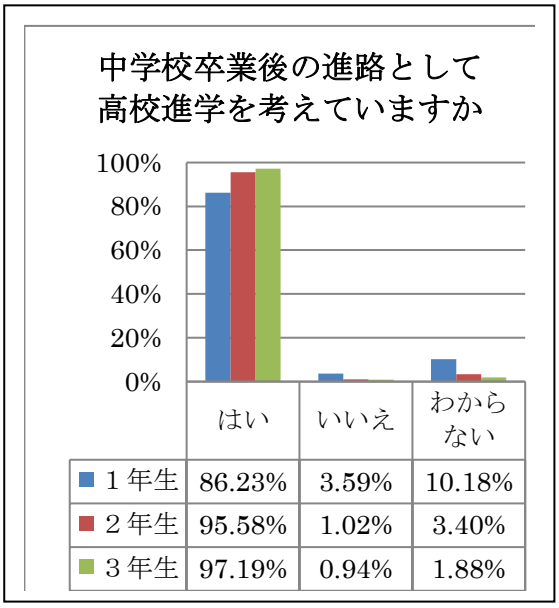
企画し、立ち上げた理由は子どもたちに進路選択について幅広く考えてもらい、将来の幸せに繋げてもらいたいという保護者や行政の目線でありましたので、実際の進路選択を行う今の子どもたちに必要とされていなければ意味のない企画となるわけです。実際には会場に多くの小中学生が来場していますので、必要な企画であることは疑いがないわけですが、必要であるという説明を補強するための資料でもあります。対象は中学 1 年生　334 名、2 年生　295 名、3 年生　320 名で条件の違う A・B・C の 3 中学校に協力いただいています。条件の違いとして A 中学校は学区内に新興住宅地あり、比較的大規模校。B 中学校は旧新興住宅地で高齢化進行、生徒数小規模。C 中学校は学区が入り組んでいるため学区外入学者が多く比較的大規模となります。各校別の人数に基づいて比較を行うと生徒数にばらつきがある為比較対象として不適切なので、3 校の生徒数を合算した上で割合表示として、中学生の進学に対する意識の傾向を解説します。

【別表 5-1】



	ある	ない	わからない
1 年生	54.19%	21.56%	24.25%
2 年生	54.58%	15.93%	29.49%
3 年生	45.31%	17.81%	36.88%

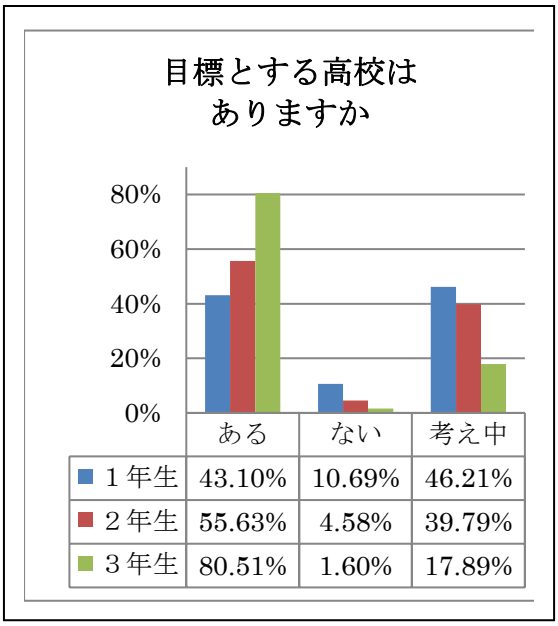
【別表 5-2】



	はい	いいえ	わからない
1 年生	86.23%	3.59%	10.18%
2 年生	95.58%	1.02%	3.40%
3 年生	97.19%	0.94%	1.88%

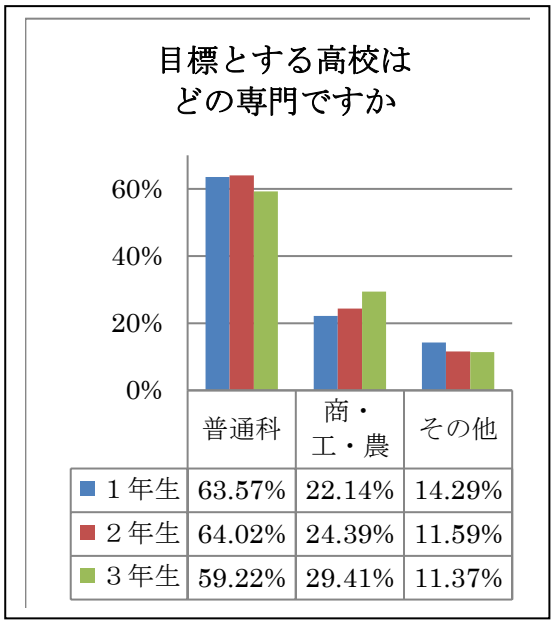
【別表 5-1】についてはキャリア教育に係る部分でもありますが、傾向として学年が上がると下降傾向になります。また【別表 5-2】については逆に上昇傾向になります。これは進学を具体的に考えるようになったことで、夢と現状のすり合わせを行うことにより、将来設計の見直しを行う過程において将来なりたい職業というある種の夢について考え直したり諦める生徒が増える傾向にあるのではないかと考えられます。

【別表 5-3】



	ある	ない	考え中
1年生	43.10%	10.69%	46.21%
2年生	55.63%	4.58%	39.79%
3年生	80.51%	1.60%	17.89%

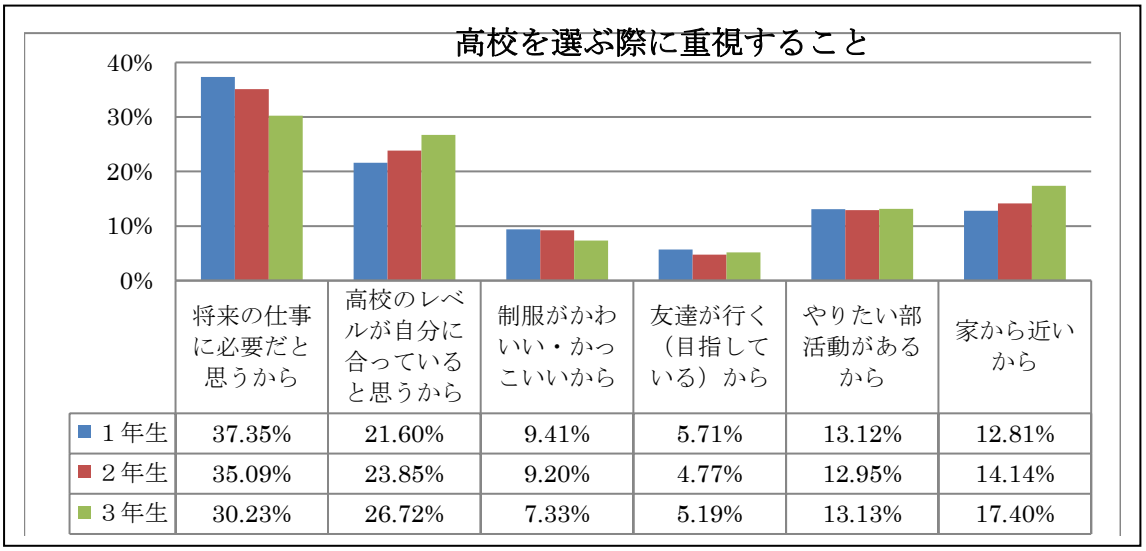
【別表 5-4】



	普通科	商・工・農	その他
1年生	63.57%	22.14%	14.29%
2年生	64.02%	24.39%	11.59%
3年生	59.22%	29.41%	11.37%

このアンケートは 9 月に行いましたが、【別表 5-3】において読み取れるように、中学 2 年生から 3 年生にかけて進路について具体的に考える様子が見て取ることができます。三泗地区高校展は 11 月開催ですので、まだ悩んでいる 3 年生の 18%や 2 年生の 40%について進路選択を考える貴重な機会となっているといえそうです。また【別表 5-4】では学年が上がるにつれて普通科から商・工・農の専科を持つ高校へと進路変更する中学生が増えていることがわかります。これについては具体的な進路選択を考える中で、何となく普通科を考えていた学生が具体的な将来設計を考える上で幅広い選択肢に目を向けた結果ではないかと推察します。

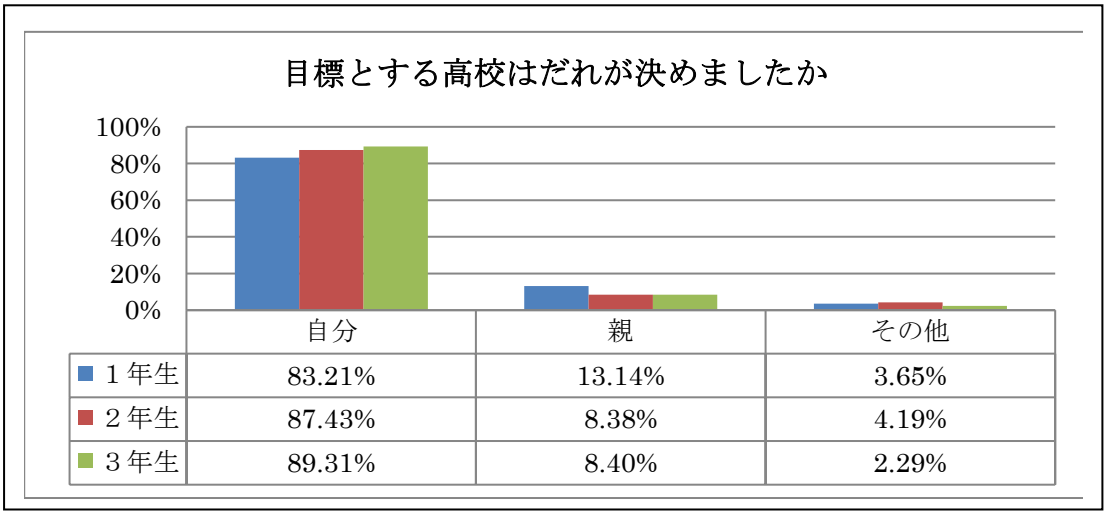
【別表 5-5】



	将来の仕事に必要だと思うから	高校のレベルが自分に合っていると思うから	制服がかわいい・かっこいいから	友達が行く（目指している）から	やりたい部活動があるから	家から近いから
1年生	37.35%	21.60%	9.41%	5.71%	13.12%	12.81%
2年生	35.09%	23.85%	9.20%	4.77%	12.95%	14.14%
3年生	30.23%	26.72%	7.33%	5.19%	13.13%	17.40%

【別表 5-5】の設問は複数回答可ですが、やはり【別表 5-1】の結果を裏付けるように将来の仕事に必要だと思うからとの回答については学年が上がる毎に減少し、高校のレベルが自分に合っていると思うからという回答が増加しています。また制服について気にしている中学生が一定数いるが 3 年生になるとやはり減少傾向になること、部活動や友人関係については 1 年生から 3 年生まで一定数が高校選択の基準に据えており有意な差は見られないことが読み取れます。意外であったのは家から近いという選択肢について学年により差が比較的大きかったことです。これは学年が上がり高校進学が具体的になった状況で改めて通学手段などを検討した結果、無理なく通える範囲という現実的な選択肢を考慮するようになった結果と思われます。

【別表 5-6】



	自分	親	その他
1 年生	83.21%	13.14%	3.65%
2 年生	87.43%	8.38%	4.19%
3 年生	89.31%	8.40%	2.29%

【別表 5-6】の表において自分で進学する高校を決めたと回答した中には親と相談して決めたという回答も含んでいます。この結果を見ると 3 年生のおおよそ 9 割が主体的に進路選択を考えていることがわかりますが、一部は周囲の意見に押されたり流されている状況もあるようです。

このアンケートの設問には高校を選択する際に不安なことの自由回答もありましたが、回答の多くは中学 2 年生のものでした。各中学校はその不安を解消するために進路指導やキャリア教育などでのフォローを行い、それは進路選択に於いての根幹をなすものであり非常に重要ですが、やはり生徒が進学を主体的に考えるためには、高校展のように進学に対する多くの情報を比較検討する機会は欠かせないものであると考えられます。

4. 現在の三泗地区高校展の状況および未来への課題

組織の枠組みを超えて開催し、多くの参加者に評価をいただいている三泗地区高校展ですが、教育環境や受験の枠組みは例年同じではありません。例を挙げると初年度開催ではなかったものに GIGA スクール構想があります。今後は今までになかった教育課程を過ご

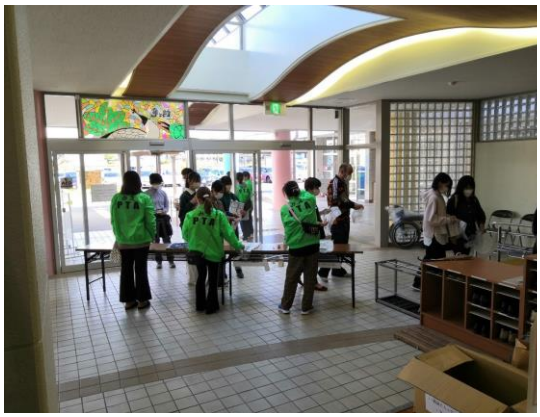
した中学生たちが受験を行うことになります。他にも変化は多いですが、そのような状況の変化を受けて、意味のある情報を提供できる三泗地区高校展でなければ企画運営の意義が無くなってしまいます。そのためには毎年の繰り返しではなく、新たな企画も必要となります。2022 年の三泗地区高校展では過去のアンケートで要望の多かった高校の制服展示を実現させましたが、来場者のアンケートを見ると「制服を見ることで具体的に高校生活をイメージできた」「モチベーションアップにつながった」という意見が多数ありました。この制服展示については初年度開催から企画として考えてはいたものの、実現するためには民間の制服販売業者の協力が欠かせないこともあり、行政が運営に携わる三泗地区高校展では特定の民間事業者を使用することは難しく暗礁に乗り上げた経緯があります。これが実現できた理由は実行委員会内の役員に制服の卸売業者を紹介していただき、その業者の方が社名を出さずに協力していただけたという厚意の賜物であり、制服展示を行った会場は下記【写真 1】【写真 2】のように過去と比較しても非常に華やかなものとなりました。

【写真 1】

【写真 2】

【写真 3】

【写真 4】



また【写真 3】は同会場の別の階の部屋を使用して同時開催を行った私立高校展の一部ですが、やはり県立高校と同時開催という効果は非常に大きく、年々参加者は増加しています。保護者や受験生の立場からすると私立高校も高校選択における重要な選択肢のひとつであるので、行政と民間企業である私立高校を繋ぐ役割として高校展実行委員会があることにより、県立高校と私立高校が同時に参画できる三泗地区高校展という企画が実現できたことは非常に意義があったと思います。三泗地区高校展実行委員会内で行政と民間企業をつなぐ PTA ですが、地域の顔としての一面もあります。【写真 4】は運営ボランティアスタッフの一部ですが、当日の運営には会場近くの学校の PTA 役員有志も積極的に参加しています。

当日のアンケート結果や社会情勢、高校側からの要望を受けて少しずつ改善し、参加する保護者や子どもたちにとっての進路選択の一助となるように開催してきた三泗地区高校展ですが、企画の骨子はほぼ完成したといえます。今後は初回から中心を担ってきた PTA メンバーの実行委員会役員が、次世代の役員にスムーズな業務移行をいかにして行うかが問われています。また 3 の中学生の意識調査アンケートでは高校受験に向けての不安などが散見されたこともあり、高等学校のブースに加えて有識者による相談ブースの設置なども考慮していく必要があるかと思われます。子どもたちは成長していくので、毎年三泗地区高校展への参加者は違いますが、この企画に参加することで高校選択について少しでも幅広く考え、さらに高校に入学してからの理想と現実の齟齬がなく楽しい高校生活を送るために、今後もこの三泗地区高校展が地区に根差した高校進学を考える際になくてはならない企画でなければなりません。また学校教育に関して一部の授業や部活動の地域移行も昨今議論されていますが、保護者・行政・地域が連携してできることのモデルケースの一つとしても今後の参考になる企画として三泗地区高校展を開催する意義はますます深まると考えられます。